

TOPICS

京都市ユースサービス協会の 記念日づくり

「おめでとうー!」

誕生日、結婚記念日、創立記念日……様々な記念日がありますが、今年の京都市ユースサービス協会は記念日づくし。

京都市ユースサービス協会としては、2018年3月に30周年を迎え、1年を通じて『30周年記念事業』を実施しています。7月25日(水)には協会設立30周年記念式典・パーティーを開き、関係の皆さまや協会職員あわせて約120名の方にご出席いただいたほか、京都市長をはじめ多くの方からお祝いメッセージをいただきました。

また勤労青少年ホーム(※)(愛称:青年の家)時代から数え、青少年活動センターでは、山科40周年、南50周年をはじめ、事業としても『演劇ビギナーズユニット』25周年などの節目を迎えました。

今回はそんな記念日をご紹介するとともに、40年、50年という長きにわたってご愛顧いただき、記念すべき日を迎えた山科青少年活動センター、南青少年活動センターから「これまで、いま、これから」をご紹介します。

山科青少年活動センター 40周年 (1978年8月2日~) 所長 宮川知子



40周年を迎えた山科青少年活動センター(愛称:「やませい」)。

山科区内7カ所の中学校等にご協力いただき、中学1年生全員にクリアファイルと施設リーフレットを毎年配布している長年の実績もあり、山科区内の中高生が多く利用しています。

やませいのテーマは、「青少年の課題解決につながる仕組みを地域社会と協働でつくる」。地域の中で若者が役割を担う「場づくり」や、若者が困ったり悩んだりした時に地域の資源(ヒト・団体・機関・情報ほか)と繋がることのできるための「機会づくり」を、地域の方々とともに協力しながら行っています。

ここ数年の取り組みとして、2015年から地域通貨「へる」事業を行っています。10代の若者が地域活動で役割を担い、活動の対価として区内の協力店舗や、やませいで使うことができる地域通貨を発行しています。活動の機会や協力してくださる「へる協力店」「へるパートナー」も徐々に増えています。

また、2016年からは「ども食堂」を実施しています。その翌年には山科区内のども食堂や関心のある地域住民が連携した「まちのちやば台ネットワーク山科」を組織し、情報・ノウハウ・資源の共有等もしています。

今年8月には、利用者の皆さまに「40周年」を迎えることができた感謝



「やませいフェスタ」(2018)

の気持ちを伝えるため、「お誕生日月間」として多くのイベントを実施しました。8月2日の開所日にちなみ、「ハニー(8)トースト」を毎日50円で食べることができる催しや、特製バッグが当たるクイズ、ケーキをつくって40周年を祝う企画、毎週火曜日のカフェでは若者のリクエストを詰め込んだ「山科プレート」を提供するなどして、とても盛り上がりました! 開所以来、多大なご支援をいただいている運営協力会でも40周年を記念した取り組みをすすめています。

これからも若者にとって安心できる居場所が多くあること、若者が地域の一員として過ごすことができること、地域で若者の成長を支えられる基盤をつくっていくことを目指します。

南青少年活動センター 50周年 (1968年~) 所長 横江美佐子



「第一回文化祭」

南青少年活動センターは、勤労青少年ホーム「南青年の家」として開所し、当時の建物そのままに50周年を迎えました。勤労青少年ホームは、高度経済成長期、「金の卵」と呼ばれた中学卒業後に地方から都会に集団就職でやってきた若年労働者のための余暇活動の施設です。故郷を離れ、知らない土地で生活をはじめた15歳の若者にとって、同世代の仲間と出会い、スポーツや書道、写真などを楽しむ時間がどれだけ貴重であり、かれらの生活を支える場であったかは当時のニュースレターや写真から読み取れます。

2001年には広く中高生・大学生までもが利用できる「青少年活動センター」となりました。南青少年活動センターは、「若者の居場所づくり」をテーマに取り組み、今までいろんな若者たちがやってきました。定時制高校が始まる前に「息つく生徒、自習室を利用する受験生、不登校やフリーターの若者やボランティア希望の大学生、バイクの暴走や喫煙など問題行動を繰り返す10代、若いママ、パパ……」。そして、中高生たちはセンターのことを今も「青年」と呼びます。私たちがいくら、青少年活動センターを名乗ろうと

も……。

1968年から「ただだけの若者が利用しているのでは」南青年の家の初期の利用者は、現在の若者の祖父母世代です。「うちの孫、お邪魔してい



「ホームカミングデー」(2018)

るみたいや」と教えてくださる近所の方や、「おばあちゃんとおじいちゃん」青年(で知り合った)「おかんも青年く使ってたんやうて」「お兄ちゃんが(青年)はおもういって言った」と話す若者もいます。そう、青年は、50年前と今をつなぐ言葉なのです。

11月17日(土)には、「青年」に「青少年活動センター」にもう一度帰る一日として「ホームカミングデー」を実施しました。

私たちが、若者の成長を支え50年が過ぎました。これから5年、10年後もこの場でかつて若者だった人たちがともに若者の育ちの場を作っていきたい。ホームカミングデーを終えて、そんな思いをあらたにしました。

- ### 周年スケジュール
- 市内7青年の家の特化事業開始から20年(1998年)
 - 京都市より南・伏見・山科青年の家(現青少年活動センター)3カ所の運営を受託して20年(1998年)
 - 条例改正によって高校生から利用できるようになって20年(1998年)
 - 「演劇ビギナーズユニット」25周年(1993年)
 - 京都市ユースサービス協会になって30年(1988年)
 - 山科青年の家開所から40年(1978年)
 - 南青年の家開所から50年(1968年)
 - 第1回グループリーダーセミナー開講から50年(1968年)

※勤労青少年ホーム……働く若者の福祉の増進を目的とした施設。各種の相談や、余暇の充実を図るため、クラブ活動やレクリエーション活動なども行われている。